



みやかわ

会津美里町立宮川小学校
令和4年度学校だよりNo.19
令和4年9月1日

会津美里町立宮川小学校長 星 潔

新型コロナウイルス感染症関連！

まだまだ新型コロナウイルス感染症の収束の兆しは見えず、保護者の皆様におかれましては、ご心配されていることだと思います。学校におきましては、子どもたちの安全を守りながら、できるだけ通常の教育活動を行ってまいりたいと考えております。しかしながら、やむなく中止せざるを得ない教育活動もある点をご了承願えればと思います。以下、現在のところの各種行事の実施予定状況です。

- ・10月19日(水)に実施予定となっておりました「高田地区鼓笛パレード」ですが、新型コロナウイルス感染症の収束が見られず、十分な練習を行うことや密を避けることができないため中止といたします。
- ・9月22日(木)＜雨天時9月26日(月)＞に実施予定となっておりました「会津美里町小学校陸上競技交流会」は実施する予定です。ただし、密を避けることや交流を最低限にすることから保護者の皆様の参観はご遠慮いただくことといたしますので、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。
- ・11月23日(水)に実施予定となっておりました「町連Pインディアカ大会」については、町連P事務局を中心に現在検討中です。決定しましたらご連絡いたします。
- ・10月15日(土)に実施予定の「みやかわまつり」は感染症対策をとって実施いたします。ただし現在のところ、密を避けるために、各家庭2名までの参観とする予定です。また下学年(1～3年生)と上学年(4～6年生)の2部制で行うことを考えています。

※ **上記は現在のところの予定ですので、感染状況によっては中止などに変更することもありますので、ご了承ください。**

本校では、まずは通常の教育活動を最優先に考え、日々の授業を行ってまいります。またご家庭におかれましても、先週配付させていただきました「夏季休業明けの新型コロナウイルス感染症対策について」や「学校だより」の内容を再掲いたしますので、もう1度お読みいただき、感染防止に努めてくださるようお願いいたします。

1 健康チェックの徹底をお願いします。

- ・体調がすぐれない場合は、無理をして登校せず、ご家庭で休養し、体調が回復してからの登校をお願いいたします。また必要に応じ、医療機関を受診ください。

2 「うたしてマスク」の徹底をお願いします。

- ・うがい、体温計測、手指消毒、手洗い、マスク着用(ただし熱中症の恐れがある場合やマスク不要な場面は除く)、適度な換気を学校外でもよろしくお願いいたします。

3 「十分な睡眠」「適度な運動」「バランスの取れた食事」など、健康な体づくりについて、ご協力をよろしくお願いいたします。

4 引き続き児童が新型コロナウイルス感染症に罹患した場合や濃厚接触者になった場合やPCR検査や抗原検査を受けることになった場合は学校まで連絡をください。ただし学校休業日は町教育委員会(55-0344)まで連絡をお願いいたします。

2学期順調にスタートしています！

8月25日(木)に第2学期始業式を行い、82日間の第2学期が順調にスタートを切りました。新型コロナウイルス感染症の心配もあったため、今回はリモートで始業式を行いました。

子どもたちは各教室で立派な態度で式に臨みました。子どもたちが一段と成長する学期になりそうです。「チーム宮川」一致団結して、教育活動に邁進してまいります。変わらぬご支援、ご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。



学びの様子から！

2学期がスタートして1週間。どの学級も落ち着いて、集中して、授業に取り組んでいます。少しだけですが学びの様子を紹介いたします。



1年生の学び合いの様子



発育測定の前に電子黒板を使って体についての学びの時間



自由研究の発表による学び合い

校長のひとりごと

今年の夏は甲子園大会をテレビ観戦する機会がいつもの年より多かったです。仙台育英高校、聖光学院高校を中心とした東北勢の躍進があったからこそだと思います。まずは仙台育英高校の東北勢初優勝。第1回大会から108年目。春夏合わせて東北勢13度目の決勝戦で、ついに深紅の大優勝旗が初めて「白河の関」を超えました。本当に素晴らしいことです。そして何とんでも私たちの福島県代表である聖光学院高校のベスト4です。聖光学院高校が入ったブロックはなんと甲子園優勝経験校が8校中5校と最激戦区でした。それでも気迫あふれる戦いで、日大三高、横浜高校、敦賀気比高校に勝利してのベスト8。九州学院との雨の中での準々決勝も制し、見事なベスト4進出。組み合わせのいたずらにより、準決勝での東北勢対決。こちらも史上初だったそうです。試合は思いもよらない展開となりました。初回のピンチを見事に0点に抑えたその裏に、いきなりの先制点でリードしたのを喜んだのも束の間、魔の2回表がやってきました。連打にミスも重なりまさかの11失点。事実上、勝敗は決定したかなと思いました。それでもその後の聖光学院の戦いの様子は全くあきらめる姿は感じられませんでした。いつもどおり大きな声を出し、気合を入れる姿。最後の最後まであきらめずボールを追い、ダイビングキャッチするその姿。球数制限が迫り、疲労のどん底の中でも必死に投球するエースの佐山君。そして赤堀キャプテンの姿。斎藤監督は「今年は赤堀がいなければ今のチームはないです。今までも男気のあるキャプテンは多かったけれど、ここまで指導者に言われなくても自分からチームを変える、チームを作るキャプテンはいない」と大絶賛していたそうです。試合終了のあいさつ後、涙ながらに赤堀主将は仙台育英の選手たちに「必ず優勝しろよ」と声をかけていました。その熱い心にもらい泣きしそうでした。何があっても最後の最後まであきらめないその姿は、私たちに何かを教えてくださいました。聖光学院の選手のような熱い心やあきらめない姿、自分たちで考えられる力などを子どもたちに教えていきたいと強く思いました。